

Ⅱ 水産資源保護対策事業（ホッキガイ）

1 保護水面調査

加藤 靖

目 的

保護水面及びその周辺海域である共同漁業権漁場共第22号（以下22号区）、共同漁業権漁場共第23号（以下23号区）の資源動向と平成13年発生ホッキガイ稚貝の出現状況を把握する。

方 法

平成13年12月に、操業に使用する貝桁網に目合い16mmの内網を取り付け調査を実施した。調査点は全36地点で、1地点当たり10m曳網し（採捕面積は10m²）、採取した生物はホッキガイとその他の生物に分け、ホッキガイは計数後殻長を測定し、その他の生物は分類後計数のみを行った。

結 果

詳細については「ホッキガイ保護水面調査報告書」に掲載を予定しているため、ここでは要約のみを述べる。

- ・採捕したホッキガイの主群は平成6年級群で、平成10年、11年発生群が若干確認され、平成13年発生したと思われる稚貝も3個体確認された。確認場所は22・23号区境の岸寄り、22号区北側の沖、保護水面の北西角で、大きさは19.9～28.5mmであった。
- ・平成13年度の調査結果からホッキガイの総資源量は9.8千トン、殻長80mm以上の個体を漁獲対象資源とすると22号区、23号区合わせて6.3千トンと推定された。
- ・平成6年級群の平均殻長は85.0mmで、昭和53～58年年級群の成長から求めた成長式の計算値と比較して約16mm小さかった。
- ・漁場全体の殻長80mm以上の個体密度は、平成6～9年までは1個/m²を下回っていたが、平成6年級群が漁獲サイズになりはじめた平成10年から高くなり、平成10～11年に約3個/m²、平成12年に約5個/m²となり、平成13年は約4個/m²となった。80mm未満の個体は、平成6年には大量発生のため45.8個/m²あったが、平成7年以降目立った発生がないため徐々に減少して平成13年には約2個/m²となった。
- ・漁場全体の殻長80mm以上の重量密度は、平成9年まで0.11kg/m²でほとんど変らなかったが、平成10年には0.41kg/m²と高くなり、平成13年には0.67kg/m²と平成6年の約6倍に増加した。80mm未満の重量密度は、平成6年に0.08kg/m²であったものが、6年級群の成長で高くなり、平成12年に0.85kg/m²と平成6年の10倍以上になったが、平成13年の調査では0.16kg/m²に減少した。